

第26回 名鉄西尾・蒲郡線（西尾駅～蒲郡駅）対策協議会総会 議事録

日 時：令和4年11月24日（木）午前10時～11時

場 所：西尾市役所53ABC会議室

出席者：（構 成 員）西尾市 近藤副市長

蒲郡市 大原副市長

愛知県都市・交通局交通対策課 片岡課長

（オブザーバー）国土交通省中部運輸局鉄道部監理課 小川課長

名古屋鉄道株式会社鉄道事業本部計画部 脇本部長

[発言要旨]

1 開会（会長：西尾市）

本日の総会は、令和3年度名鉄西尾・蒲郡線の概況、その他として「にしがま線げんき戦略Ⅱについて」現状報告を予定している。

2 報告事項

令和3年度名鉄西尾・蒲郡線の概況について（名古屋鉄道株式会社）

資料1に基づいて報告

3 その他

にしがま線げんき戦略Ⅱに係る現状報告について（事務局：西尾市地域つながり課）

資料2・3に基づいて概要と現状の報告

4 意見交換

(蒲郡市)

運行について各所にお礼。コロナの影響が深刻で長期化にも懸念がある。鉄道事業者と地域の協働による地域モビリティの刷新に関する検討会より今後の地域の公共交通について一定の方針が示された。手遅れにならぬよう施策を展開しなければならない。引き続き、連携合意書に基づき、積極的にやっていく。

蒲郡市としては4つの温泉郷などもあり竹島を中心に観光都市として定期外の利用を促進していく。どうするお食事家康公スタンプラリーの展開や岡崎市等と連携したホテル旅館の宿泊プランを組むなど、大河ドラマを契機に重点的に観光施策に取り組みを強化している。

また、地域の方にも、にしがま線の重要性をさらに浸透させる取り組みも展開していく。西浦駅の駅舎は12月末に取り壊しが完了する。西浦温泉の観光拠点でもあることから、市として駅舎を建設していく。さらに、地域の方に親しまれるものとするため、学生コンペでデザインを決定していく。引き続きしっかりと利用促進に取り組み、利用者の増加に努めていきたい。

(愛知県)

厳しい経営状況の中、公共交通の担い手として運行を続けている名鉄、運行支援を続けている両市に敬意を表したい。コロナ禍という経験のない状況下でも、関係者の積極的な利用促進策に心強く感じる。「げんき戦略Ⅱ」の計画期間である2025年までの5年間は、コロナの動向が引き続き不透明な状況ではあるが、名鉄西尾・蒲郡線の運行継続にとって非常に重要な期間。関係者が一丸となって、計画に基づく取組を進めてほしい。

県においても、本年2月に策定した「あいち交通ビジョン」の取り組みの一環として、パークアンドライド実践の動機づけ等を目的に、福地駅近郊の住民にアンケートと啓発を実施予定である。

本県としては、いろいろな形で一緒になって取り組んでいければと考えている。

(中部運輸局)

鉄道行政への協力の謝辞。第8波は懸念されるが、全国旅行支援で公共交通を使うとインセンティブが得られることから、人の移動は活発化している。

にしがま線の現況として、定期外が伸びていないように見受けられる。その中で様々な取組を連携して実施しており、メディアでも取り上げられている印象。露出度が高いことから、広く機会創出に効果が感じられる。

コロナ前後の移動需要の変化に係る調査を行い、結果を取りまとめた。三重のローカル線で、データ分析を丁寧に取り組んでいる。原因等を分析しターゲットを絞った取り組みを効果的に展開されている。住民アンケートや国、市町村、事業者の資料など持ちより施策展開に活用する取り組みとなっている。

これまでは、定期外利用者向けの取組に活発な印象があるが、鉄道特性を生かすには定期利用者が重要。事業環境の変化から定期利用者が100%以上に戻るということは考

えにくいですが、ここにもスポットを当てて新たな取組につなげることも必要となる。我々には、色々な事業者の取組の情報が集約できており、情報の共有・横展開にも協力していきたい。

(名古屋鉄道株式会社)

日頃から弊社及び名鉄グループの各事業にご理解・ご協力をいただき、また、コロナ禍において、西尾・蒲郡線の活性化を目的とした様々な取組みを従前以上に展開していただき、重ねて御礼申し上げます。

最近の状況として、全線では通勤定期はコロナ前の8割強までしか回復していない。テレワークや車通勤といった新しい行動様式が定着したこともあり、今後、コロナ前の状況に戻ることはないと考えている。定期外はコロナの波と連動して増減している。インバウンドについては、首都圏では少しずつ回復傾向だが、セントレアは中国人観光客がメインという特性もあり全く回復していない。

この他、電気代や資材価格が高騰しており、引き続き収支・構造改善に取り組まなければならない。

にしがま線では、7億5千万円の経常損失。運行支援金をいただいても生じる赤字に対し、他線区の黒字で補うという内部補助のスキームは、今後立ちいかなくなくなると考えている。新たな生活様式の定着や人口減少などへの対応が差し迫る課題であるとともに、鉄道路線を今後どうするかを真剣に考える必要があると感じている。鉄道事業者と地域の協働による地域モビリティの刷新に関する検討会からの提言もあり、今後いかにして利便性・持続性の高い公共交通を構築していくか関係者と前向きに協議していきたい。

引き続き、経営効率化に努めるとともに、住民の方の生活の足をしっかりと支えるため、安全・安心で誰もが利用しやすい公共交通の構築に努めるほか、観光活性化による交流人口の増加やまちづくりによる定住人口の増加に寄与するよう連携を深めていきたい。引き続き関係者の協力をお願い申し上げます。

(西尾市)

当該路線については、新型コロナウイルスの影響を受け、厳しい収支状況が続いているが、名古屋鉄道におかれては、その運行に多方面からのご努力をいただくとともに、昨年の12月に締結した連携合意書に基づき、これまで以上に体制を強化し、沿線地域の魅力向上と収支改善に努めていただいていること感謝。

白帯復刻やミュージスカイの貸切列車、駅メモのデジタルスタンプラリーなど多くの方に好評を得ることができた。

示唆いただいたデータ分析なども実施し、ターゲットを絞った取り組みを進めていきたい。

名鉄西尾・蒲郡線は西尾市の公共交通の基軸を成し、この路線の存続と沿線地域の発展は一体であり、欠かせない路線と認識している。吉良地区駸馬・瀬戸地区においては、デンソーの大規模工場の進出を契機に、新たなまちづくりを予定している。最寄り駅の上横須賀駅前のロータリー整備をはじめ、駅周辺の宅地開発などによりにしがま線の存続・繁栄を見据えた新たなまちづくりを進めていく。

令和8年度以降の存続について早期に合意を得ることで、沿線の学生をはじめ将来を担う子どもたちに安心感を与えられるよう努めていく。今後とも引き続き、ご出席の皆さまのお力添えをお願いしたい。

以上